

茨城剣道連盟 広報

令和4年1月発行

一般財団法人 茨城県剣道連盟



山岡鐵舟書「安靖」(アンセイ)

参考図書 全生庵所蔵文化財図録 山岡鐵舟

- *山岡鐵舟は剣、禪、書の大家で、幕末動乱期、徳川慶喜の命を受け、西郷隆盛と会見し、江戸無血開城の道を開く。維新後は明治天皇の侍従として仕え、また、多くの門弟を育成する。初代茨城県知事として活躍する。鐵舟が開いた台東区谷中の「全生庵」に眠る。
- *安靖とは安んずる、安らかにおさめるという意味。

主な記事

令和3年度基本方針と推進事業

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 役員

- 剣連における快挙 (小倉培夫).....1頁
- 剣道功労賞 受賞に感謝 (佐藤成明).....2頁
- 副会長就任のご挨拶 (諏訪文夫).....3頁
- 専務理事就任にあたって (齊藤克朗).....3頁
- 居合道部部长就任にあたって (平野政弘).....4頁
- 杖道のすすめ (松本重雄).....4頁
- 表彰
 - ・令和3年度 生涯スポーツ功労賞受賞者.....5頁
 - ・令和3年度 剣道有功賞受賞者.....5頁
 - ・令和3年度 少年剣道教育奨励賞受賞団体.....5頁
 - ・令和3年度 茨城県剣道連盟功績賞受賞者.....5頁
 - ・剣道有功賞の顕彰を拝受して (糸賀睦夫).....5頁
 - ・私と剣道 (大都弘道).....6頁

- 段位審査会.....7頁
- 合格者の声
 - ・感謝と喜びに満ちた心 (井上 豊).....9頁
 - ・杖道七段審査を終えて (松下俊夫).....9頁
- 県内・県外大会記録.....10頁
- 『生かせいのち』～大祢廣伸先生を偲んで～(林 明人).....14頁
- 茨城県剣道少年団研修会
 - 体験・実験発表会に参加して(牛坂裕彦).....15頁
 - 勝つこと (鈴木ひまり).....16頁
 - 再び歩み始めた道 (齋藤一斗).....17頁
- 令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 理事.....18頁
- 令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 評議員.....19頁
- 令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 各地区(市)職域 会長等.....20頁
- 令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 委員会.....20頁
- 事務局だより.....21頁
- 編集後記.....21頁
- 表紙・裏表紙「鐵舟が開いた全生庵」

令和3年度基本方針と推進事業

【令和3年度事業計画書より】

1 基本方針

本連盟は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じつつ、定款第3条に規定する目的を達成するため、公益財団法人全日本剣道連盟（以下「全剣連」という。）を始めとする関係機関、団体と緊密に連携し、各地区（市）、職域剣道連盟等と一丸となって、次に掲げる事業を推進する。

2 推進事業

- (1) 剣道、居合道、杖道（以下「剣道等」という。）大会の開催、後援
- (2) 剣道等に関する調査、研究
- (3) 剣道等の称号、段位及び級位の審査
- (4) 剣道等の指導者の育成及び講習会等の実施
- (5) 剣道等県外大会及び各種講習会等への役員、選手、受講者の派遣
- (6) 剣道等功労者の表彰
- (7) 機関誌の発行
- (8) その他の事業

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 役員

役 職	氏 名
会 長	小 倉 培 夫
副 会 長	水 田 重 則
	平 山 恒 夫
	安 俊 寿
	香 田 郡 秀
	立 野 忠 男
	諏 訪 文 夫
専 務 理 事	齊 藤 克 朗
常 任 理 事	梅 村 恒 雄
	糸 賀 睦 夫
	鈴 木 洋 行
	清 水 修
	小 磯 仁 宏
	寺 田 幸 司
	阿 部 昭 彦
	中 村 雅 広
	雨 谷 益 水
	宮 本 尚 朋
本 江 義 明	
監 事	大 高 幸 夫
	谷 島 喜和夫

役 職	氏 名
名 誉 会 長	高 山 陽 好
相 談 役	高 崎 慶 男
	佐 藤 成 明
	中 里 誠
	金 谷 光 躬
	小 澤 智
	高 山 能 昌
	羽 賀 紀 正
	小 林 忠 雄
	平 子 允 秀
	宮 本 清 美
	大 森 廣 美
	古 谷 勲
	根 本 武 雄
参 与	宮 田 忠 幸
	石 山 陸 紀
	曾 雌 哲 雄
	野 澤 龍 之

剣連における快挙



(一財)茨城県剣道連盟
会長
小倉 培夫

師走に入り、何かと気忙しい毎日ですが、会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は、本連盟の充実発展のために、多大なご支援ご協力を賜り心からお礼申し上げます。

私儀、去る五月三十日に開催された本連盟理事会・評議員会における役員改選において、令和三年度・四年度の会長に再任されました。浅学非才な私にとって重責であり身の引き締まる思いです。二期目の大役を皆様の絶大なご支援をいただきながら本連盟発展のために努力致してまいります。

本連盟は「わが国の伝統と文化に培われた剣道・居合道・杖道（以下剣道等という。）の普及・発展を図るとともに、剣道等を通じた心身の錬磨による人づくりと社会の健全な発展に貢献することを目

指す。」これは永遠の課題・目標であり、指導者の役割は重要です。令和元年・二年度は役員・会員の皆様のご支援ご協力によって無事に役目を果たすことが出来ました。心から感謝申し上げます。

元年度、筑西市下館総合体育館において開催された、第七十四回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」剣道大会は全国から選手・役員、一般観覧者など延べ約二万人が来場しました。大会は本県選手が激闘を制して、少年男子・少年女子・成年男子・成年女子の「四種別完全優勝」を達成、これ以上ない国体になりました。その活躍は大会を大いに盛り上げ、本県やふるさとの方々に感動と元気を与えてくれました。天皇杯得点一五四点は本県全種目のトップ成績で天皇杯・皇后杯獲得に大きく貢献しました。加えて競技会運営やおもてなしの心も素晴らしく、県内外の関係者から多くのお礼状を頂きました。

さらに、全日本都道府県対抗剣道大会男子団体準優勝、全国教職員剣道大会団体・個人優勝、全国

高等学校男子団体二位・女子個人優勝、全日本剣道選手権男子松崎選手が準優勝、女子竹中選手が第三位をはじめ、その他多くの団体・個人選手が入賞し、これ以上ない年になりました。

令和二年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日常の生活が一変し、多くの人の生命や健康が奪われ、また経済活動にも波及し、危機的な状況に陥りました。本連盟でも多くの事業が中止を余儀なくされました。

その中であって、三月に長野市で開催された全日本剣道選手権大会において松崎賢士郎選手が優勝に輝きました。また、その間剣道八段に川崎臣先生、井上豊先生、居合道八段に関展秀先生が昇段されました。

各賞を受賞した先生は、佐藤成明先生が武道功労賞（日本武道館）、剣道功労賞（全日本剣道連盟）、高山陽好先生、糸賀睦夫先生が生涯スポーツ功労賞（文科省）、牛久市体協剣道部が生涯スポーツ優良団体（文科省）を受賞されました。

剣道有功賞に宮田武先生、梅村恒雄先生（令和元年度）、糸賀睦夫先生、大都弘道先生（令和二年度）、山口和男先生、眞谷繁美先生（令和三年度）

剣道功績賞に（令和元から三年度）、加藤力男先生、岩本茂夫先生、松島重夫先生、佐藤和男先生、片野梅吉先生、宮本清一先生が受賞されました。本連盟へのご尽力ありがとうございます。

私事ですが、令和三年度生涯スポーツ功労賞（文科省）を賜りました。これも皆様のお陰であると、心より感謝申し上げます。

今後の課題は剣道等の正しい普及・発展のために、教育の充実を図ること及び剣道等の人口減少への対応です。少子化に伴う剣道等人口減少、これは全国共通の課題となっておりませんが、財政にも直結することもあり、会員の確保、経費削減等に真剣に取り組んでいくところがあります。この課題克服のためには、皆様のお力が欠かせません。尚一層のご尽力をお願い申し上げます。

剣道功労賞 受賞に感謝

(一財)茨城県剣道連盟
相談役

佐藤 成明

(公財)全日本剣道連盟より
令和二年度「剣道功労賞」(令
和三年三月十四日付け)を拝受
致しました。

並み居る諸先生、諸先輩、剣
友の皆様を差し置いて私如きの
受賞に驚き入り恐縮致すと共に
此の上ない光栄の至りと感激し
感謝致しております。

特段の業績も無い私の拝受の
理由を、敢て申せば剣道を特技
とする体育教師になることを目
指して旧・東京教育大学体育学
部に入学し「教育剣道の父」と
敬われる「理合いの剣道・教育
剣道」を旨とする旧・東京高等
師範学校剣道科初代の主任教
授・高野佐三郎先生の薫陶を受
けた諸先生方の御指導を受け、
卒業後に未熟ながらも、「教育
剣道を受け継ぐ中継ぎ役」の大

役を仰せ付かった一人として、
時代も変り教育制度や機構も変
った今日、所在地も校名も変り
ましたがその流れを汲む筑波大
学に於いて「優れた剣道の指導
者・教育者・研究者の養成」を
目指す伝統を正しく受け継ぎ、
次世代に正しく受け渡すべく今
日まで学生諸君と共に精進して
きた事。些かながらも学校剣
道(教育剣道)の振興、「幼少
年剣道指導要領」や映像資料な
どの指導書等の作成に携わった
事、日本の伝統的な運動文化で
ある剣道の健全な国際的普及の
為に派遣されて諸国への剣道使
節として訪問した事、国際剣道
連盟の審判講習会講師、外国剣
士の講習会講師、国際的普及に
関わる指導書やその映像等の作
成に携わってきた事、学生剣道
の振興に携わってきた事、全日
本剣道連盟国際委員会委員をは
じめ多くの専門委員会委員、理
事、常任理事、参与、審議員等
を歴任した事、加えて茨城県剣

道連盟の多くの皆様の御指導、
御支援に支えられて歴史と伝統
の「武の国」茨城県剣道連盟会
長を務めさせていただいた事等
が挙げられるかも知れません。
これ等の事柄が御指導をいた
だいた教育剣道を継承する全て
の先生、先輩方、その他、数々
の先生方、そして学生剣道界の
諸先生や先輩及び共に精進した
学生諸君方への顕彰であって私
存じます。

個人への表彰ではなく、偶然に
も僭越ながら私が代表して受賞
したものであると思うので
す。

この受賞を機に、微力ではあ
りますが「理に適った、強く、
美しい」剣道の修得・実現を目
指して、改めて伝統的教育剣道
の普及と振興の為に学生諸君を



副会長就任のご挨拶



(一財)茨城県剣道連盟
副会長
諏訪 文夫

会員の皆様方には、平素から当連盟の事業運営につきまして、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本年五月に開催されました令和三年度第一回理事会におきまして副会長にご推挙頂き就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で大変厳しい社会情勢ではありますが、本連盟の発展のため全力で職務に取り組んで参る所存でございます。

私は、副専務理事、専務理事在任中、関係者の皆様方と共に茨城国体における完全優勝（成年男女、高校男女）という課題を皮切りに、大会、審査会等開催時における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策、適正かつ効率的

な事業運営に期するため、称号・段級位審査規則、理事会規則等の改正、更に事務局関係では、パート・嘱託職員を新たに採用したことから、就業規則を制定し、パート職員等の勤務環境の整備に取り組んでまいりました。専務（副専務）理事として、まさに光陰如箭を実感する四年間でした。

今後、新型コロナウイルス感染症禍における各種の事業運営、剣道人口の減少防止施策の推進及び茨城国体レガシーの継承事業等々盤根錯節の事態ではありますが、副会長として、関係団体との連携を強化するとともに、会員の皆様方と協同して、この事態を乗り越えて行きたいと考えております。

結びに、会員の皆様方のますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。副会長就任のご挨拶とさせていただきます。

専務理事就任にあたって



(一財)茨城県剣道連盟
専務理事
齊藤 克朗

昨年五月の県連盟理事会及び評議員会において専務理事の役目を仰せつかりました。微力ではありますが諸先生方からのご指導と剣友の皆様方のお力添えをいただきながら本県の剣道並びに居合道と杖道の発展に少しでも貢献できるような努めさせていただきますのでご支援の程をよろしくお願いいたします。

さて、茨城国体の栄光から始まった令和新时代の本県の剣道、この順風は今後も長く続くものと思われしました。しかし一昨年から新型コロナウイルス感染症の猛威によって社会生活の停滞とともに剣道の活動にも大きく影響がでております。そうした中、全日本剣道連盟から本年度の活動の目標が示されました。一つ目は「コロナ感染症対策」、コロナ禍においての剣道実践への工夫、二つ目は「正しい剣道の

推進」、攻めを優先する真つ向勝負の剣道の充実、そして三つ目は「事故・トラブルの防止」で、組織の大小にかかわらず危機へのガバナンスとコンプライアンスの整備、この三つの推進を求めています。

本連盟としても全剣連の方針を受け活動の充実を図るとともに本県の抱える諸問題の解決に努めていきたいと考えています。現在の一番の課題は「剣道人口の減少」で登録人数のピーク期にあった平成初期からの減少の幅はとても大きく今後の活動への心配が増すばかりです。各地区連盟並びに職域連盟においては学校との連携をさらに強めこれまで以上に剣道の魅力を発信し入門者確保に努めていただきたいと思えます。また、近年スポーツ界においては様々な不祥事が多発しており剣道界も例外ではありません。活動中の事故や事件は剣道のイメージを低下させ競技人口減少にも拍車をかけるものになってしまいます。厳しい指導が受け入れられなくなっていること、ご理解をいただき今後の指導に当たっていただけたなら幸いです。

さらに令和四年度には本連盟が創設され七十年目を迎えます。多くの諸先輩方の努力によって積み上げられた実績や伝統をさらに素晴らしい形で未来につなげたいと考えます。新たな歴史構築に向け会員の皆様方には一層のお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。就任にあたっての挨拶といたします。

居合道部部长就任にあたって



(一財)茨城県剣道連盟
居合道部部长
平野 政弘

令和三年四月より小林忠雄先生の後の居合道部部长に就任いたしました平野政弘です。

副部长山崎明正先生・副部长伊藤政敏先生(事務局兼務)・幹事長塚本哲也先生・会計齋藤健一先生と新体制で始めました。茨城県剣道連盟会長小倉培夫先生・齊藤克朗専務理事並びに役員の先生方、早乙女事務局長には日頃、ご指導

いただき感謝申し上げます。

就任いたしました四月より居合道部のホームページのリニューアルをしました。伊藤副部长主導でタイムリーな更新と全日本剣道連盟のガイドライン等の会員との共有化・各行事や要綱・居合道部広報などの掲載です。会員の皆様に情報を早く提供したく思います。全日本剣道連盟も十月の全日本居合道大会の要綱などもメールに添付され各都道府県剣道連盟に配布されました。ウェブ会議などインターネットを活用され、移動経費や送料等節約もそうですが即時性が増すものと思われれます。

また、月に二度の水戸と土浦で合同稽古も担当の山崎副部长が居合道八段位者のご協力を得て交代での参加をお願い致しました。中央審査員や全国大会選手など経験豊富な先生方ですので会員の皆様には緊急事態宣言などコロナの影響で中止がありますが奮って参加していただきたいと思ひます。

幹事会では未来検討会として定期的に集まり演武会や支部対抗戦なども発案企画しており会員を増

やす努力をしています。会員の皆様も居合道部の為のご意見等を寄せください。私たち役員も協力したいと思っております。

山崎副部长は六月より全日本剣道連盟居合道委員会委員となりました。斯道のためにも益々のご活躍をご祈念いたします。

役員・会員の皆様のご協力を得て更に茨城県居合道部の発展することを切に願っております。私も修行中で微力ではありますが五十年近く稽古したものを若い人たちに少しでも伝えられたらと思っております。

杖道のすすめ



(一財)茨城県剣道連盟
杖道部部长
松本 重雄

杖道は杖を武器とする武道であって、杖は、長さ4尺2寸1分(128cm)直径8分(24mm)、太刀(木刀)は、長さ3尺3寸5分(101.5cm)、柄の長さ8寸(24.2cm)、ともに白櫂を使い太刀は革鏢とする。

杖道は攻撃を主とせず、相手の攻撃に応じて変化し制圧するのが本旨である。

□その指導精神は、「傷つけず人をこらして戒しむる教えは杖の外にはある」という古歌にある通り形の多くは後の先で始まる。精神の修養と身体鍛錬を第一義とする。決して手足の技ではなく心の技で、その目的は精神修養にある。主として次の5点をあげてみる。

(一)礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われる。
(二)身体を強健にし、活動を敏活にする。

(三)姿勢態度がよくなる。
(四)判断力、決断力が養われ、自信をもつて事に当たれる。

(五)対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

□礼法には座礼、立礼があり、
(一)座礼は道場中央下座で約3歩の距離で向い合って正座し、太刀は鏢を右膝頭の線に揃え、刃を内側にして、杖は杖の中心部を右体側中央に拳ひと握り離して置き、姿勢を正し、徐に両手を

同時に膝の前に八字形に上体を曲げて行い、礼が終わったら徐に両手を元に復する。

(二)立礼は上座の立礼は約30度、相互の礼は15度で相手に注目して行う。太刀は右手提刀、杖は立杖または提杖で行う。

□杖道の姿勢には立杖、提杖がある。

□杖の構え方には、

(一)常の構え

(二)本手の構え

(三)逆手の構え

(四)引落の構え

があり右、左それぞれがある。杖道の姿勢の特徴として「揃える」「やや半身」「真半身」がある。

太刀の構え方および解き方として、提刀、携刀、帯刀の姿勢がある。太刀の構え方には中段、諸手左上段、諸手右上段下段、八相、脇構えの構えがある。杖と太刀、仕打交代しての練習である。

また杖の基本十二本があり基礎となるものであってこれを修得することによって杖道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

表 彰

受賞おめでとうございます。

令和三年度

生涯スポーツ功労賞受賞者

文部科学省

小倉 培 夫

(県剣道連盟会長)

令和三年度

剣道有功賞受賞者

全日本剣道連盟

眞 谷 繁 美

(前県剣道連盟理事)

山 口 和 男

(元石岡市剣道連盟会長)

令和三年度

少年剣道教育奨励賞受賞団体

全日本剣道連盟

① 中郷剣友会

(北萩地区)

② 神栖少年剣道教室

(鹿島地区)

③ 土浦高津剣道クラブ

(土浦地区)

④ 利根町剣友会 (取手地区)
⑤ 取手中央剣道部 (取手地区)
⑥ 青藍館剣道スポーツ少年団 (ひたちなか地区)

⑦ 納場剣道スポーツ少年団

(小美玉地区)

⑧ 東海村剣道スポーツ少年団

(ひたちなか地区)

⑨ 誠心剣友会

(水戸地区)

⑩ 上野剣道クラブ

(那珂地区)

令和三年度

茨城県剣道連盟功績賞受賞者

加藤 力 男

(元土浦地区剣道連盟会長)

岩 本 茂 夫

(元下妻地区剣道連盟会長)

松 島 重 夫

(元竜ヶ崎地区剣道連盟会長)

佐 藤 和 男

(元那珂地区剣道連盟会長)

片 野 梅 吉

(元坂東地区剣道連盟会長)

宮 本 清 一

(元茨城県剣道連盟理事)

剣道有功賞の顕彰を拝受して



(財)茨城県剣道連盟 常任理事

糸 賀 睦 夫

この度は、全日本剣道連盟より剣道有功賞を拝受し、身に余る光栄と感謝しております。

これも偏に茨城県剣道連盟会長小倉培夫先生をはじめ、諸先生、諸先輩、剣友各位の御指導、ご尽力の賜物と深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

剣道への取り組みは、中学校時代に始まります。当時の古渡中学校には剣道部がありませんでした。教頭先生にお願いし、友達を募り、剣道部を発足させて頂きました。道場も体育館も無いので、授業が終わった教室で、机椅子を片付けてからの稽古でした。

大学でも剣道部が無く、有志を募り事務局学生課長と交渉し結成の認可を頂き、体育会の合気道・空手道・杖道等武道団体の協力を頂き武道場の稽古がス

ターゲット出来ました。

昭和五十四年には、稲敷郡桜川村の剣道少年達の団体が、スポーツ少年団登録をしていなかった。そのためその設立に尽力しました。

筑波研究学園都市桜村では、仕事の都合で平日に剣道の稽古が出来ない人が居りましたので、県立高校の協力を頂き毎日曜日の朝稽古会を設けました。現在は、市立中学校の施設解放事業として、剣道形・合稽古・論語の素読を行っております。

つくば市誕生に伴って、町村体協剣道部及び剣道スポーツ少年団の一本化に貢献しました。また茨城県実業団剣道連盟の発足から行事の活性化に努めております。全日本剣道連盟社会体育指導員上級者一期生として、指導者の意識高揚と技能の錬磨に貢献しています。茨城県高齢剣友会が生涯剣道者の交流と健康保持の場としてなるよう努力しています。

茨城県剣道連盟では常任理事として、広報・普及・合同稽古

に携わっております。

此れからも、剣は人なりを旨とし、礼節を学び『克己』を掲げ生涯剣道を目指します。

私と剣道



(一財)茨城県剣道連盟
評議員
大 都 弘 道

この度、全日本剣道連盟より令和二年度「剣道有功賞」拝受の荣誉に浴することは、身に余る光栄と感激を致しております。これも偏に茨城県剣道連盟会長小倉培夫先生を始め、役員のご先生並びに諸先輩、剣友各位のご指導の賜物と感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

さて、私と剣道の出会いは父親が剣道好きで、友人には以前に皇宮警察で剣道をしていた先生や教職員剣道大会で活躍された先生がおり幼少の頃から様々な剣道の話聞き影響を受けて、地元の高萩高校に入学すると同時に剣道を始めました。初心者

で何もわからない私でしたが、顧問赤津正先生の「幾つになっても剣道が出来るように」と基本を重視した厳しさの中にも優しさを併せ持った指導のもと剣道を修練する事ができました。

高校での剣道が現在少年剣士に剣道を指導していく上で非常に役に立っている事は、申すまでもありません。

卒業後水戸信用金庫に就職し、勤務先近くの道場で多くの先生から指導を頂きながら剣道を続けて参りましたが仕事も忙しくなり剣道から遠ざかってしまいました。

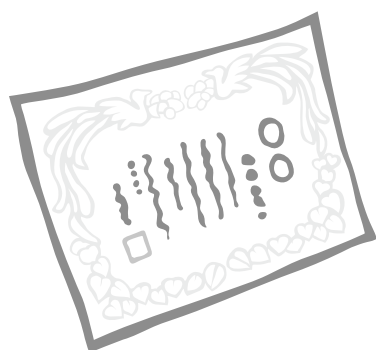
昭和六十年息子が勝田若葉会に入会し剣道を始めたのがきっかけとなり、稽古を再開したのが現在の剣道の始まりです。若葉会での稽古は館長尾坐原先生の指導のもと楽しく稽古させて頂きました。

定年退職後は、茨城県剣道連盟の監査・事務局長と務められた事、また、ねんりんピックには、監督一回、選手三回出場する事

が出来、山口大会では準優勝する事ができたことは、良い思い出です。

現在は勝田若葉会の事務局長及び佐野支部長（佐野若葉会）として剣士二十四名と共に汗を流せることに、喜びを感じています。

今後は受賞に恥じないように健康の維持、体力の増進を図りながら年齢に即した剣道に心掛けることを目指しています。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



段位審査会

剣道称号合格者

教士号

令和三年五月三日

会場 京都市武道センター武徳殿

海老原秀則 白田 貢

宮本 武 高星 学志

吉井 栄作 浅野 繁晴

中野 雅文 長尾慎一朗

菊地 原 米川 恒男

中村 浩 中西 正和

日座 昭 山口 貞雄

令和三年十一月二十三日

会場 東京武道館

神山 知久 国分 順

根本 明德 白土 栄司

清水 秀一 徳田 智裕

大津 晃 辻 和久

加藤 信之 横山 達郎

坂元 和明 江崎 正彦

鍋山 夏子 穂山 壽一

川上 厚子 荒木 秀夫

日向 潔 岩本 毅

篠塚 弘

錬士号

令和三年五月三日

会場 京都市武道センター武徳殿

平野 要輔 大久保 元
加瀬 英哲 堀越 一良
穂山 壽一 小島 悦雄
間中 勝男 坂本秀三郎

令和三年十一月二十三日

会場 東京武道館

五十嵐 亨 遠藤 靖子

新橋 洋二 大畑 光正

小字佐伸哉 川上 崇

近藤 孝人 鈴木 規仁

清司 穂高 棚林祐一郎

村田 光

剣道段位合格者

剣道八段

令和三年五月二日

会場 京都市体育館

井上 豊

剣道七段

令和三年二月二十日

会場 ホワイトリング

長野市真島総合スポーツアリーナ

相馬 卓 松本 和幸

浅野 繁明

令和三年四月三十日

会場 京都市体育館

本多 史憲 廣瀬 寿嗣

令和三年五月十五日

会場 名古屋枇杷島スポーツセンター

生見 徳 落合 弥生

福本 俊彦

令和三年八月七日

会場 福岡市総合体育館

原口 秀徳 雨谷 鉄平

令和三年八月二十一日

会場 新潟県立武道館(謙信公武道館)

青木 宏介 小磯 優

令和三年十一月十三日

会場 名古屋枇杷島スポーツセンター

國谷 雅之

令和三年十一月二十三日

会場 東京武道館

矢口二三也 川崎 佳子

鈴木 巧 湯山 弘法

長岡 武史 大島 利昭

山下 悦子 加藤 宏二

板東 徹 飯田千加代

小島 悦雄 袴塚 耕二

令和三年十一月二十四日

会場 東京武道館

遅野井裕樹 塚田香代子

椎名みどり 伊藤 民雄

名雪 幸子 秋山 桂一

中川 淳

剣道六段

令和三年二月二十一日

会場 ホワイトリング

長野市真島総合スポーツアリーナ

星野 若葉 中川 明憲

赤荻 一紀 北沢真理子

大塚 浩 河田 俊一

令和三年五月十六日

日時 名古屋枇杷島スポーツセンター

菅谷 雅彦 保科 憲二

令和三年八月二十二日

会場 新潟県立武道館(謙信公武道館)

近藤 太志 濱 智昭

古谷 啓道 高山 知政

坂本 俊一 菊池 勝広

令和三年十一月二十日

会場 エスフォルタアリーナ八王子

深谷 健太 木村 真之

小池 卓司 小室 晃

鈴木 隆 羽田 勝典

佐和 正久

剣道五段

令和三年二月七日

会場 県武道館大道場

宮嶋 隆広 鈴木 兼光

穂山 寛史 臺 純一
 菊地 一則 高安 博行
 清田 浩之 山田 晋
 丸山 貴之

寺崎遼太郎 落合ひかり
 牧野 竜士
 令和三年五月九日
 会場 県武道館大道場

秋山 桂一 篠崎 淳
 谷川 久郎 大庭 良介

杖道段位合格者
 杖道七段
 期日 令和三年一月十五日
 会場 江戸川区スポーツセンター
 関 展秀

期日 令和三年五月九日
 会場 県武道館大道場

木村 正幸 根本 光昭
 関谷 和人 石井 久夫
 田口 正美 鶴田 洋平
 坂尾 真嗣 石田 顕子
 塚田 大地 宇津野文玲
 渡辺 優斗 渡部 年充

葛西 三男 金原 博
 立花 高康 岸 宏
 小松 貴弘 阿久津恵子
 川邨 航暉 山形 桃花
 石田 広明
 令和三年十一月七日
 会場 県武道館剣道場

居合道七段
 日時 令和三年十一月七日
 会場 江戸川区スポーツセンター
 二瓶 貴博 早瀬由美子

居合道六段
 日時 令和三年七月二日
 会場 新潟県立武道館(謙信公武道館)
 楠本 健太

杖道五段
 期日 令和三年十月三十日
 会場 東京武道館
 須藤 恵一

期日 令和三年十一月七日
 会場 県武道館剣道場

鳩貝 耕一 高津戸健一
 佐藤 嘉雄 秋元 宏孔
 大谷 隆史 東ヶ崎圭祐
 和田 大河 亀崎 龍一
 齊藤 奨 鶴見 健太

剣道四段

期日 令和三年二月七日
 会場 県武道館大道場

濱口 雄樹 馬淵 大輔
 鯉沼 健二 大森 良二
 藤本 俊宏 青山 智晴
 水上 竜雲 若旅 祐太
 矢澤 一真 幕田 熙

鳴井 淳 中川 貴博
 山田 和樹 杜 昕
 高橋 啓太 小菅 寛輝
 井川 康平 戸崎 嘉
 中野 佑美 荒木 智也
 大部 渉 駒田 奈都
 永井 志門 萩谷 海太
 荒井みはる 飯村 日菜
 清野鼓太郎 渡邊 正史
 大津ももか 武井 菜月
 高橋 舜 中村紗菜子
 赤野間瑞季 松村 駿輝

居合道称号合格者

錬士号

期日 令和三年十一月二十三日
 会場 東京武道館

居合道五段
 期日 令和三年四月四日
 会場 霞ヶ浦文化体育館
 平間 裕治

居合道四段

期日 令和三年四月四日
 会場 霞ヶ浦文化体育館
 大内 洋貴 高野 郁美
 大内 徳人

公堂



合格者の声

感謝と喜びに満ちた心



井上 豊

この度は、令和三年五月二日、京都審査会におきまして、八段位に合格させていただきました。この上ない喜びであるとともに、これまでご指導いただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

私は中学入学時に剣道を始めましたが、本格的に剣道の指導を受けたのは境高校入学後になります。宮本安先生に師事し、厳しくも正しい剣道をご指導いただきました。それが今の私の剣道の礎となっています。その後、國學院大学に進学し、良き指導者、先輩、仲間にも恵まれ、さらに正しい剣道を形成していくことができたと感じます。

大学卒業後は教員として、部活動に携わり、その指導を通して、さらに奥深く剣道を考えるようになりました。常に生徒と共に、稽古を怠らず、師弟同向で歩んで来たつもりです。そしてその中で自分に課した目標が八段

昇段です。

初めての受審は五十歳でした。それから合格するまで九年を要しました。何度も一次審査に合格するも二次審査の高い壁に跳ね返されてきました。だんだんと焦る気持ちも強くなり、稽古が苦しくつらい時もしばしばありました。周囲の支えもあり何とか続けることができました。先をかけて「攻め」「溜め」で「捨てて打つ」ということを意識して徹底して取り組みました。ベイスは学校の部活動ですので生徒たちとできる限り毎日面をつけて稽古をしました。たとえ生徒であれ横着した剣道をしないよう心がけ、足りない分は近隣の道場で稽古をいただきました。また、トレーニングも欠かさず行うようにしました。さらには動画も活用し、多くの先生方の立会いを参考にさせていただきました。

審査当日は、これまでの反省を生かし、課題をしっかりと頭に入れ、「全てを出し切る」という気持ちで臨みました。初太刀から迷うことなく捨てて打つことができました。それが良い結果につながったのだと思います。

今後は、この感謝の気持ちと喜びを忘れず、さらに精進してまいりますので、どうぞご指導いただきますようお願い申し上げます。

杖道七段審査を終えて

土浦杖道会
松下 俊夫

平成三年八月に札幌で開催された杖道審査会で七段に昇段しました。四十九歳で杖道を始めて二十三年、七段は二度目の審査での合格でした。まずはこの場を借りて、入門以来様々な場面でお世話になった方々に感謝申し上げます。

あいにく審査会は新型コロナウイルス感染症第五波の最中、全国各地で緊急事態宣言が出され、種々の制約や行動の自粛要請がある中、無事開催できたのは関係者のご尽力のおかげだと思います。

さて今回の審査会、二度目で決めると念じて臨みましたが、再び要所要所で形を極められず不本意な演武となりました。結果を待つ間は次回に向けた対策を思案しており、合格できたのは意外でした。そのため安堵はしたものの、達成感は湧きませんでした。

杖道の審査は形のみで、六段以上の審査では当日相手が決まります。技の練度は自分の責任ですが、

迫真の演武となるには杖と打太刀両者の気の交流が不可欠と考えます。一月の初回審査時には、仕・打いずれの番でも組んだ方と何故か氣息が合わず、想定外の状況に動揺してしまいました。その反省から今回は、たとえ合気を感じられなくとも動ぜず自分の技に集中するよう言い聞かせ審査に臨みました。結果的には、相手との相性が良かったのか慣れの効果もあったのか、前回のような状況は生じませんでした。しかし、これまで述べた内容では特段評価できる要素が見つかりません。審査結果の発表後、同じ組だった方から、「杖の厳しい攻めが見え合格は当然ですよ」との感想を頂きました。思い切りの良い攻めの姿を示すことは稽古で課題としていたことなので、もしそこが審査員の目に留まったのであれば少し救いとなります。

七段を頂きましたが、自分の限られた稽古環境では本当の自分の立ち位置は分かりません。七段授与は、さらに研鑽してその地位に恥じぬようなれとの督励と考えるのが良さそうです。年々老化を感じるわが身ですが、これを励みに「生涯杖道」を求めて行く所存です。

県内・県外大会記録

第六十八回茨城県剣道選手権大会

兼第六十八回全日本剣道選手権大会県予選

期日 令和三年二月二十日

会場 茨城県武道館

優勝 松崎賢士郎(筑波大)

二位 山下 和真(茗溪学園)

三位 堀川 峻(筑波大)

第四十回茨城県女子剣道選手権大会

兼第五十九回全日本女子剣道選手権大会県予選

期日 令和三年二月二十日

会場 茨城県武道館

優勝 海津みなみ(筑波大)

二位 濱田 裕佳(筑波大)

三位 塚田 萌(国士館大)

令和二年度 茨城県高等学校剣道新人大会

(個人戦 男子・女子)

期日 令和三年三月十三日

会場 茨城県武道館

男子

優勝 吉倉 百汰(水戸葵陵高)

二位 櫻井 朝日(土浦日大高)

三位 田村 龍哉(水城高)

三位 浅田 真吾(水戸葵陵高)

女子

優勝 秋山 一華(土浦二高)

二位 秋庭紗良咲(守谷高)

三位 興野 笑理(茗溪学園高)

三位 石田 和(土浦湖北高)

第六十八回全日本剣道選手権大会

期日 令和三年三月十四日

会場 ホワイトリング 長野市真鳥

総合スポーツアリーナ

男子

優勝 松崎賢士郎

三回戦敗退 山下 和真

第五十九回全日本女子剣道選手権大会

期日 令和三年三月十四日

会場 ホワイトリング 長野市真鳥

総合スポーツアリーナ

初戦敗退 海津みなみ

二回戦敗退 濱田裕佳

令和二年度 茨城県高等学校剣道新人大会

兼全国高等学校剣道選抜大会予選(女子)

期日 令和三年三月二十日

会場 茨城県武道館

女子団体

優勝 守谷高

二位 茗溪学園高

三位 土浦湖北高

三位 岩瀬日大高

令和二年度 茨城県高等学校剣道新人大会

兼全国高等学校剣道選抜大会予選(男子)

期日 令和三年三月二十一日

会場 ひたちなか総合運動公園体育館

男子団体

優勝 水戸葵陵高

二位 土浦日大高

三位 水城高

三位 茗溪学園高

第六十九回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

第十三回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

茨城県代表選手選考会

期日 令和三年三月二十一日

会場 茨城県武道館

男子 先鋒の部

(高体連が選考)

男子 次鋒の部

優勝 武蔵 治斗(明治大)

二位 藏持 輝(日大)

男子 三将の部

(警察職員)

男子 五将の部

優勝 松崎賢士郎(つくば)

二位 仁部 昭太(土浦)

男子 中堅の部(学剣連が推薦)

優勝 山下 和真(茗溪学園)

二位 山下 拓真(土浦日大)

男子 副将の部

優勝 矢口二三也(土浦)

二位 遠藤 瑞土(土浦)

男子 大将の部

優勝 飯田 真巳(土浦)

二位 山下 克久(土浦)

女子 先鋒の部

(高体連が選考)

女子 次鋒の部

優勝 海津みなみ(筑波大)

二位 柿元 冴月(法政大)

女子 中堅の部

優勝 中島 千佳(日立)

二位 柴山 久美(土浦)

女子 副将の部

優勝 矢口 良子(土浦)

女子 大将の部

優勝 鍋山 夏子(つくば)

令和三年度県民総合体育大会兼第七十六回

国民体育剣道競技選手選考会(成年男女)

期日 令和三年四月十日

会場 茨城県武道館

男子 先鋒の部

優勝 松崎賢士郎(筑波大学院)

二位 佐藤 祐太(筑波大学院)

三位 渡辺 悠斗(国士館大)

男子 次鋒の部

優勝 山下 和真(つくば)

二位 佐々木陽一朗(つくば)

三位 山下 拓真(土浦)

男子 中堅の部

優勝 矢口二三也(つくば)

二位 鈴木 規仁(土浦)

男子 副将の部

優勝 川上 有光(常総)

二位 川崎 臣(土浦)

三位 山下 克久(土浦)

男子 大将の部

優勝 本名 和彦(日立)

二位 飯田 真巳(土浦)

女子 先鋒の部
 優勝 柿元 冴月 (法政大)
 二位 海津みなみ (筑波大)
 三位 塚田 舞 (土浦)
 女子 中堅の部
 優勝 小松澤映吏子 (つくば)
 二位 星野 若葉 (鹿島)
 女子 大将の部
 優勝 川上 厚子 (常総)
 二位 川崎 佳子 (つくば)

第十九回全日本選抜剣道八段優勝大会

期日 令和三年四月十八日
 会場 中村スポーツセンター (名古屋)
 二位 鍋山 隆弘
 二回戦敗退 本名 和彦

令和三年度 第六十八回関東高等学校

剣道大会茨城県予選会 (男子個人)
 期日 令和三年五月七日
 会場 日立市池の川さくらアリーナ
 男子個人

優勝 吉倉 百汰 (水戸葵陵高)
 二位 浅田 真吾 (水戸葵陵高)
 三位 正田真太郎 (水戸葵陵高)

令和三年度 第六十八回関東高等学校 剣道大会茨城県予選会 (女子個人)

期日 令和三年五月八日
 会場 笠間市体育館
 優勝 秋庭紗良咲 (守谷高)

二位 是川 怜華 (守谷高)
 三位 大石 修子 (茗溪学園高)

令和三年度 第六十八回関東高等学校 剣道大会茨城県予選会 (男子団体)

期日 令和三年五月十三日
 会場 茨城県武道館
 優勝 水戸葵陵高
 二位 土浦日大高
 三位 茗溪学園高

令和三年度 第六十八回関東高等学校 剣道大会茨城県予選会 (女子団体)

期日 令和三年五月十四日
 会場 茨城県武道館
 優勝 守谷高
 二位 茗溪学園高
 三位 岩瀬日大高

令和三年度第六十八回関東高等学校 剣道大会 (男子個人・女子団体)

期日 令和三年六月五日
 会場 埼玉県立武道館
 男子個人
 二位 (優秀選手賞) 浅田 真吾 (水戸葵陵高)
 ベスト8 熊木 隆汰 (水戸葵陵高)

令和三年度第六十八回関東高等学校 剣道大会 (男子個人・女子団体)

期日 令和三年六月十日
 会場 茨城県武道館
 男子個人
 一回戦敗退 吉倉 百汰 (水戸葵陵高)
 二回戦敗退 正田真太郎 (水戸葵陵高)

女子団体

一回戦敗退

岩瀬日大高 土浦湖北高

取手松陽高

二回戦敗退

茗溪学園高 守谷高

令和三年度第六十八回関東高等学校 剣道大会 (女子個人・男子団体)

期日 令和三年六月六日
 会場 埼玉県立武道館

女子個人

ベスト8 (優秀選手賞) 大石 修子 (茗溪学園高)

一回戦敗退

森園 華乃 (守谷高)

二回戦敗退

秋庭紗良咲 (守谷高)

是川 怜華 (守谷高)

男子団体

一回戦敗退

下妻一高

二回戦敗退

土浦日大高 水城高

三回戦敗退

茗溪学園高 水戸葵陵高

令和三年度 第六十八回全国高等学校 剣道大会茨城県予選会 (男子団体)

期日 令和三年六月十日
 会場 茨城県武道館

男子団体

優勝 水戸葵陵高

二位 土浦日大高

三位 水城高 茗溪学園高

令和三年度 第六十八回全国高等学校 剣道大会茨城県予選会 (女子団体)

期日 令和三年六月十一日
 会場 茨城県武道館

女子団体

優勝 守谷高

二位 岩瀬日大高

三位 土浦湖北高 茗溪学園高

令和三年度第六十八回全国高等学校 剣道大会 茨城県予選会 (男子個人・女子個人)

期日 令和三年六月十四日
 会場 アダストリアみとアリーナ
 男子個人

優勝 吉倉 百汰 (水戸葵陵高)

二位 櫻井 朝日 (土浦日大高)

三位 大輪 結世 (水城高)

三位 戸塚倫太郎 (土浦三高)

女子個人

優勝 大石 修子 (茗溪学園高)

二位 秋庭紗良咲 (守谷高)

三位 興野 笑理 (茗溪学園高)

三位 森園 華乃 (守谷高)

第五十五回茨城県居合道大会

第五十六回全日本居合道大会茨城眞代表選手選考会

期日 令和三年六月十九日

会場 ひたちなか市総合体育館メインアリーナ

初段以下

優勝 佐藤 雅克(日立)

二位 杉山 邦夫(筑西)

三位 宇佐美優樹(守谷)

川上 正司(守谷)

二段

優勝 大倉 善博(ひたちなか)

二位 川嶋 丈夫(笠間)

三段

優勝 古谷 武士(守谷)

二位 落合 隆行(守谷)

三位 古谷きよみ(守谷)

長峰千津子(かすみがうら)

四段

優勝 高橋真由美(古河)

二位 高野 郁美(古河)

三位 徳宿 典孝(ひたちなか)

菅谷 聡(笠間)

五段

優勝 桜井 隆士(かすみがうら)

二位 江川 浩士(かすみがうら)

三位 吉川 寿(鹿行)

甲斐咲也香(古河)

六段

優勝 橋本 篤志(鹿行)

二位 二瓶 貴博(日立)

三位 大庭 良介(下妻)

早瀬由美子(古河)

七段

優勝 齋藤 健一(鹿行)

二位 来栖 利枝(土浦)

三位 篠原 武司(北茨城)

第七十六回国民体育剣道競技関東ブロック大会

期日 令和三年六月二十日

会場 ユウケイ武道館

(栃木県総合運動公園武道館)

成年女子 第二位

柿元 冴月(法政大)

小松澤映史子(つくば)

川上 厚子(常総)

第四十七回茨城県道場少年剣道大会

兼全国大会茨城県予選会

期日 令和三年六月二十日

会場 ひたちなか市総合運動公園総合体育館

小学生の部

優勝 芳明館

二位 結城尚武館

三位 いばらき少年剣友会

(一財)勝田若葉会

中学生の部

優勝 結城尚武館

二位 芳明館

三位 下館士徳会

水海道剣道教室

第三十三回全国健康福祉祭剣道交流

大会茨城県代表選手選考会

期日 令和三年六月二十六日

会場 茨城県武道館

六十〜六十四歳の部

優勝 小関 広一(那珂)(代表)

二位 柴崎 明(下館)(代表)

六十五〜六十九歳の部

優勝 生沼 輝男(古河)(代表)

二位 宮田 正順(ひたちなか)

七十歳以上の部

優勝 田中 榮治(水戸)(代表)

二位 大塚 則夫(北相馬)(代表)

第六十回全日本女子剣道選手権大会

茨城県代表選手選考会

期日 令和三年七月四日

会場 茨城県武道館

優勝 柿元 冴月(法政大)

二位 濱田 裕佳(筑波大)

三位 海津みなみ(筑波大)

第十二回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

期日 令和三年七月十日

会場 ジェイテクトアリーナ奈良

茨城県 三回戦敗退

第五十二回茨城県団体選手権大会

期日 令和三年七月十八日

会場 石岡市運動公園体育館

◇第二部(シニア)

優勝 纏会

二位 龍ヶ崎剣友会

三位 石鷄館

三位 茨城県高齢剣友会

◇女子の部

優勝 常磐大学

二位 鹿縁会

三位 茨城町剣蛭会

三位 高体連

◇男子一部

優勝 芳明館

二位 結城尚武館

三位 牛久栄進OB

三位 波修館

◇優秀選手

①小磯 仁宏(纏会)

②星野 若葉(鹿縁会)

③渡邊 千奈(常磐大学)

④川崎 俊輝(芳明館)

⑤宮崎 悠太(牛久栄進OB)

⑥渡辺 悠斗(結城尚武館)

⑦湯浅 拓也(波修館)

令和三年度県民総合体育大会中学生

大会剣道競技(男子団体・女子個人)

期日 令和三年七月二十一日

令和三年度県民総合体育大会中学生

大会剣道競技(女子団体・男子個人)

期日 令和三年七月二十二日

会場 岩瀬体育館ラスカ

男子団体

優勝 茗溪学園中

二位 水海道中

三位 総和中

三位 勝田第一中

女子団体

優勝 下館中

二位 猿島中

三位 守谷中

三位 旭中

男子個人

優勝 梶本 郁希 (下館中)

二位 浅野 達彦 (竹来中)

三位 風間 一慶 (勝田一中)

三位 井関 蓮太 (守谷中)

女子個人

優勝 矢口 怜良 (守谷中)

二位 小磯 美結 (水海道西中)

三位 熊木 優香 (下館中)

三位 鬼沢 姫彩 (旭中)

第四十七回茨城県道場少年剣道大会 (低学年の部)

期日 令和三年八月一日

会場 茨城県武道館

優勝 いばらき少年剣友会

二位 猿島剣友会

三位 明信館

三位 小川少年剣友会

第四十三回茨城県道場対抗剣道大会

期日 令和三年八月一日

会場 茨城県武道館

優勝 益水館 A

二位 仁武館

三位 日高道場

三位 いばらき少年剣友会 A

令和三年度第四十六回関東中学校剣道大会

期日 令和三年八月七日 (女子団体)・八日 (男子団体)

会場 ALSOKぐんまアリーナ

男子団体

リーグ敗退 谷田部中 勝田第一中

一回戦敗退 茗溪学園中 総和中

水海道中 明光中

女子団体

三位 下館中

リーグ敗退 旭中 明光中 守谷中

一回戦敗退 猿島中 土浦第二中

寛仁親王杯第二十一回剣道八段選抜大会

期日 令和三年九月四日

会場 東京武道館

二位 本名 和彦

第六十七回全日本東西対抗剣道大会

期日 令和三年九月五日

会場 昭和電工武道スポーツセンター

茨城県出場選手

中山直樹 (先鋒)

鈴木規仁 (二十七将)

平岡右照 (二十三将)

三名が出場

東軍 勝利

第六十回全日本女子剣道選手権大会

期日 令和三年九月十九日

会場 ジェイテクトアリーナ奈良

ベスト8 優秀選手賞受賞 柿元 冴月

初戦敗退 濱田 裕佳

会場 岩瀬体育館ラスカ

女子の部

一部 優勝 守谷高

二位 茗溪学園高

三位 常総学院高

三位 岩瀬日大高

二位 水戸啓明高

二位 鹿島高

三位 日立二高

三位 土浦湖北高

第六十九回茨城県剣道選手権大会

兼第六十九回全日本剣道選手権大会県予選

期日 令和三年九月二十六日

会場 茨城県武道館

優勝 佐々木陽一朗 (教員)

二位 矢口二三也 (刑務官)

三位 山下 和真 (教員)

第五十六回全日本居合道大会

期日 令和三年十月九日

会場 東京武道館

団体の部 第二十四位

五段の部 ベスト十六 桜井 隆士

六段の部 一回戦敗退 橋本 篤志

七段の部 二回戦敗退 齋藤 健一

一部 優勝 水戸葵陵高

二位 土浦日大高

三位 茗溪学園高

三位 水城高

二位 優勝 下館二高

二位 波崎高

三位 石岡一高

三位 土浦湖北高

第六十九回全日本剣道選手権大会

期日 令和三年十一月三日

会場 日本武道館

一回戦敗退 佐々木陽一朗

二回戦敗退 矢口 二三也

第五十四回茨城県高校団体勝ち抜き大会 (女子・男子)

期日 令和三年十一月十三日



『生かせ いのち』

大柵廣伸先生を偲んで



茨城県剣道連盟医学委員長
全日本医師剣道連盟事務局長
林 明人

全日本医師剣道連盟会長が

残したメッセージ

全日本医師剣道連盟は一九五九年に結成された全国の医師剣道家四五〇名の会員からなる組織です。会員は剣道を愛好するとともに剣道の安全・健康に関わる活動をしております。その全日本医師剣道連盟会長であった茨城県土浦市在住の大柵廣伸先生が令和三年八月二十七日に七十四歳で天国に召されました。大柵廣伸先生は茨城県土浦第一高等学校卒業後、昭和大学医学部に入学。中央大柵整形外科形成外科院長・元土浦市医師会会長で旭日双光章を受章されています。剣道は教士七段、居合道は教士六段でした。廣伸先生は剣道範士八段・居合道範士八段で医師であった大柵一郎先生のご子息です。二十年前に私が茨城県の土浦警察道場を見学させていただいた

際に廣伸先生に初めてお会いしたことを鮮明に覚えています。大柵一郎先生が九十四歳で稽古されるのを後方で支えていらしたのが廣伸先生でした。ご挨拶したところ、初対面の私に是非稽古に来てくださいと、にこやかな笑顔でお声掛けいただきました。

廣伸先生はGHQからの剣道禁止令が解かれて数年後、小学一年から父であり師である一郎先生に旧憲兵隊剣道場にて剣道の手ほどきを受け始められたとのことでした。稽古終了後には子どもたちは正座をし、朱熹の偶成を詠っていたとのこと。「少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず未だ覚めず池塘春草の夢階前の梧葉已に秋聲」。小学生であった廣伸先生は少年が忽ち老人になってしまいう内容に驚いたそうですが、七十歳を過ぎて深く心に沁みると回想されています。こ



の話をついて、私も家を離れ下宿生活になった際に父が書いた孔子の「吾十有五にしてにして学を志す」との掛け軸を渡されたことを思い出しました。父から子に伝えたメッセージは心に深く残るものと共感した次第です。

平成二十八年、第五十一回全日本医師剣道大会が茨城県つくば市で開催された際に大会長の廣伸先生が記念の手拭いに書かれたのは『生かせ いのち』でした。人生の目的は自分を生かすこと、高野山真言宗管長を務められ僧医であった阿倍野竜正氏の言葉とのことです。命の尊さを大宇宙の一連の命と捉えた考え方に廣伸先生は感銘を受け、その教えを生命観の根幹とされていました。「私たち人間は

人間社会に暮らしています。社会のルールを厳守し社会性を持つということは自分を生かし他人をも生かすことです。生かすべきいのちとは、生命体としてだけでなく、自分に付随した体力・知力・技術・資格・友人・財産など全てを生かすことを指す」と説かれています。剣道の教えである『活人剣』とも重なります。いただいた命を全うすることを医師として剣道人として、人間として大事にされていたのだと思います。

全日本医師剣道連盟では『医剣一如』をスローガンとしています。医術の道と剣の道は一つの如しという意味です。廣伸先生は剣道における臨機応変さを求める剣道と医療の場での臨機応変の重要性を

重ねておられました。また、ご専門の形成外科は身体表面の変形や変色を治療する診療科で、整形外科では運動機能の失調を治療する診療科です。良好な運動機能を得



(写真) 平成 28 年全日本医師剣道大会 (茨城大会) にて、茨城県チームが優勝

るためには良い形を伴っていないければならない、これは剣道での姿勢も同じです。『心は形を求め、形は心を進める』という合点の行く言葉です。
他界された日の前夜に、ご子息で整形外科医の英昭先生から連絡をいただきお会いすることができました。ほとんど意識のない中、「また一緒に剣道しましょう!」とお声掛けしたところ、眉がわずかに動き、左手にぐつと力が入りました。剣道の手ぬぐいに書かれた『生かせ いのち』のお言葉がにこやかな笑顔と共に心に沁みます。まさしく生かさされ輝かれた命でした。心よりご冥福をお祈りいたします。



(写真) 平成 30 年高崎慶男範士の功労賞のお祝いにて

茨城県剣道少年団研修会 体験・実験発表会に 参加して



(一財) 茨城県剣道連盟
理事
牛坂 裕彦

剣道の発展と健全なる青少年の育成を目的に結成された道場連盟では、その目的を達成させるために多くの事業を展開しております。

今回皆様を紹介いたしますのは、体験・実践発表会です。これは日本剣道少年団が主催となり、剣道で養った精神と身体を善用することをねらいとして行われています。修業を通して、子供たちが実際に学んだことや体験したことを文章にまとめ、発表するものがあります。県、関東地区、全国大会があります。本県の入賞歴は輝かしく、レベルの高さを自負しております。

全国大会で最優秀賞を獲得した選手は、夏に日本武道館で行われる全国道場少年剣道大会の開会式

で、参加者・来場者一万人を前に発表します。毎年、最優秀賞受賞者は力強く発表し、多くの観客に感動を与えております。

今年は、十一月十四日(日)日立市十王総合健康福祉センターにて、小学生百十六作品、中学生六十六作品の合計百八十二作品の過去最高の応募作品の中から、厳正なる審査を経て、小学生二十作品、中学生十作品を入選とし発表してもらいました。

それでは、最優秀賞を受賞した小学生の部鈴木ひまりさん(鹿島神宮道場)、中学生の部齋藤一斗くん(逆西少年剣友会)の二作品を紹介いたします。



勝つこと



鹿島神宮道場
鹿嶋市立三笠小学校 六年
鈴木 ひまり

「負けたくない！」

という気持ちで試合場に立ち、相手をじっと見つめます。しかし、たいていは、怖くて、怖くて、口の中がかわき、手がふるえ、足が固まってしまいます。

「誰に負けないの？誰に勝つの？」

答えは、自分自身の心です。以前は、目の前の試合相手に勝つことでした。しかし、最近気がついたことがあります。一番手ごわくてやっかいなのが自分自身の弱い心であると。私の心の中には、その弱い自分がいて、私のことをさそっているように思うのです。

「やめちゃおうよ。やらなくてもいいんじゃない？頑張らなくてもいいよ。」

と、私に声をかけるので、今までの私は「まあ、いいや」と、弱い自分に負けて、途中であきらめて

しまったり、頑張らなかつたりしていました。剣道の稽古中に苦しくなければ手を抜いてしまったり、学校の宿題をさぼったり、ピアノの練習や塾の宿題なども、「今日は疲れたからいいや、また今度やろう。」と、自分に言い訳をしていました。

でも気がついたのです。それは、とても暑い日のことでした。一分間一本勝負の稽古をした時のことです。取るか取られるか、一分しか時間がないあせりと緊張感で気持ちも張りつめ、手がふるえまじった。

「集中！集中！攻めるよ、攻めだよ。」

と、自分に言い聞かせました。暑さと怖さに押しつぶされそうだったからです。

「やあー！」

と大きな声を出して攻めて攻めて前に出ました。最後は相面になり、結果は、引き分けに終わりました。しかし、終わってみると、とてもすがすがしい気持ちになっていました。暑さや怖いと思う自分に勝

つことができただと思いましたが、

「そうだ、きっとこれが自分の弱い気持ちに勝つということなんだ。」

と思った瞬間でした。

試合の時のように大きなできごとではなくても、毎日の中で迷う時があります。それが自分の心の弱さと戦う時なんだと思います。

「えい！」

と、試合の時のような強い気持ちをもたなければ弱い自分に負けてしまいます。振り返れば、学校の持久走大会の時もそうです。途中から苦しくなってきました。奥歯をかんで、「あともう少し、まだ走れるよ。」

と自分に言い聞かせながら走っています。逃げ出したい気持ちもあるのですが、剣道の稽古や試合で経験した気持ちを思い出して頑張りました。自然に、弱い自分と戦って勝ち、すがすがしい気持ちになっただけではありません。剣道でつちかっただ歯を食いしばる力が発揮された時でした。

剣道の稽古は苦しいことが多い

のですが、先生の言葉に、気持ちをしつかりとをもって稽古をするうちに、弱い自分に少しくずつですが、勝てるようになってきているように感じます。剣道の上手い下手もそうですが、剣道の稽古を通して、心をきたえていただいているのだと思いました。私は剣道を始めて六年目になりますが、心のことを考え始めたのは六年生になってからのような気がします。今では心をきたえることが、実は一番大切なことなのではないかと思っています。大切なことを教えてくれたのは剣道です。指導してくださる先生方と、稽古を一緒にやってくれる仲間たちがいたから、『自分自身に勝つ』ことの大切さに気が付けたのだと思うので、先生方や仲間達にはとても感謝しています。これから、中学生になっても、きつと苦しいことや嫌なことがたくさんあると思います。剣道の稽古を通して、何事にもつきまとう弱い心や迷いと戦う力をきたえ、自分に勝ち、すがすがしい気持ちで目標に向かえるように頑張りたいと思います。

再び歩み始めた道



逆西少年剣友会
かずみから市立下稲吉中学校
三年
齋藤 一斗

剣道の理念「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」理念を理解できない年齢で始めた剣道。

幼かった僕は、八歳年上の兄の影響を受け、小学生の低学年で竹刀を握りました。

初めて見た剣道の稽古は、身震いがし、全身に稲妻が走るような衝撃的なものでした。僕には剣道しかないと思った瞬間です。

最初に学んだ道場は東京都にあり、礼儀、相互の労わり、心遣いを含む基本動作の徹底習得を図り、正しい剣道を身に付ける事が道場の目標であり、基本を中心に日々稽古に励みました。

先生方のご指導を受け、区民大会では優勝する事ができました。

小学四年生の頃、千葉県の道場に移りました。週三回の稽古に加え、少年部の先生のご指導のもと

週二回選抜組の稽古があり、週末には錬成会や大会がありました。

錬成会、大会が終わると、更に稽古がありました。移った頃は、激しい稽古についていけず、足がふらふらになり、全身筋肉痛。学習面にも身が入らず毎日辛い日々でした。

僕にはレベルが高すぎて、何度も辞めようと思いました。涙した日もありました。辛い稽古、辛い日々、「やめたい」と言ったとき、支えてくれた家族、仲間達、そして、多忙な中時間を割いて指導していただいた厳しくも優しい先生、いろいろな人に守られて越えられた日々。辛い事を乗り越えたのだから、どんなことがあっても剣道をやめることはないと思っていました。

中学生になり、剣道部に入部しました。稽古は決して楽なものではなかったけれど、良き先輩、気の合う仲間達と共に過ごした日々は楽しかったです。

しかし、僕が一年生の時にある大会に補欠として参加。準決勝から次鋒として試合に出ました。相

手は僕よりもはるかに大きな体。自分自身を奮い立たせ、竹刀を握り、勝つために精一杯神経を集中させ試合に臨みました。勝つことができ次は決勝。チームは二勝二敗代表戦で敗退。残念ながら僕も負け、チームは準優勝でした。

僕は、監督から「お前のせいで負けた」と何度も言われ、次の日もまた次の日も。精神的に追い込まれ、剣道が苦痛になりました。

家族に相談し、剣道部をやめることにしました。母は「心を休める時間が必要。剣道を忘れる事は絶対出来ないから、いつかきっとまた竹刀を握りたくなる時が必ず来る。それまでは、ゆっくり休みなさい。」と言ってくれました。僕は目を閉じ、ゆっくりうなずきました。

剣道のことには考えないようにしようと思えました。しかし考えないようにと思えば思うほど、剣道のことを考えてしまう。心に穴が開いたような、何をしたらいいのかわからなくなった日々。なんとなくマラソンを試してみたり、筋トレをしてみたりと口では「もう剣

道はやらない」と言っていたけれど、僕は無意識のうちにいつまでも剣道が出来る準備をしていました。ふと母の言った言葉が頭をよぎりました。「竹刀を握りたくない時が必ず来るから。」改めて僕は思いました。大好きな剣道、誰かのためにやるのではなく、自分自身のために、剣道をやる。大好きな剣道を続けようと心に誓いました。

逆西少年剣友会で学ぶ事を決め不安な中参加した稽古、改めて剣道の楽しさを思い出しました。快良く迎え入れてくれた剣友会のみなさん、この剣友会で、もう一度剣道を学び、自分自身のためだけでなく、一生懸命学ぼうとしていく小さな子に、剣道の辛さや楽しさを伝えられたらなと思います。

終わりのない、人間形成の道を僕は一歩踏みだし始めることができました。

各道場の先生方に感謝し、日々稽古に励み、剣道の素晴らしさを伝えていきたいです。

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 理事

指 名 理 事	
小 倉 培 夫	田 中 榮 治
水 田 重 則	中 村 雅 広
平 山 恒 夫	寺 田 幸 司
安 俊 寿	齊 藤 克 朗
香 田 郡 秀	吉 田 信 二
立 野 忠 男	雨 谷 益 水
諏 訪 文 夫	

ブロック・地区等		理 事	ブロック・地区等		理 事
県 北	北 萩	石 橋 実	県 西	下 館	川 田 淳
	日 立	梅 村 恒 雄		結 城	立 堀 和 巳
	太 田	直 江 克 也		下 妻	石 濱 一 義
県 央	水 戸	清 水 修		常 総	小 磯 仁 宏
	ひたちなか	鈴 木 洋 行		坂 東	木 村 隆
	那 珂	宮 崎 正 雄		古 河	古 谷 芳 和
	大 子	石 井 修		桜 川	穂 山 壽 一
	笠 間	塙 清		職域等・居合・杖道	
小 美 玉	皆 藤 誠 志	職域等		学 剣 連	阿 部 昭 彦
県 南	石 岡			本 江 義 明	高 体 連
	土 浦		倉 持 利 夫	中 体 連	黒 澤 和 敏
	稲 敷		酒 井 睦 男	警 察	大久保 隆
	取 手		杉 野 壽 一	道 連	牛 坂 裕 彦
	龍ヶ崎		椎 名 健 司	実 業 団	眞 谷 繁 美
	つくば		稲 田 敏 己	女 子 部	藤 崎 金 子
	かすみがうら	坂 田 正 明	高 齢 剣	糸 賀 睦 夫	
鹿 行	鹿 島	宮 本 尚 朋	居 合 道	平 野 政 弘	
	行 方	岡 部 弘	杖 道	松 本 重 雄	

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 評議員

ブロック・地区等		評 議 員	ブロック・地区等		評 議 員						
県 北	北 萩	田 崎 龍 治	県 西	下 館	高 橋 修						
		小 川 藤 範			富 田 武 彦						
		田 卷 直 美			北 島 訓 生						
	日 立	柳 橋 広 之		結 城	牧 野 喜 則						
		大 窪 裕 寿		下 妻	北 居 健 一 朗						
		八 百 律			平 石 雅 裕						
石 川 義 雄	常 総	谷 中 浩 一									
岡 部 啓 文		塚 田 英 之									
県 中 央		水 戸		横 山 金 一 郎	鹿 行	坂 東	成 島 信 行				
	西 野 隆			鈴 木 次 男							
	兼 子 勝 喜			落 合 茂 樹							
	戸 崎 昭 夫			古 河		假 屋 憲 宏					
	平 岡 永 照		桜 川			安 部 和 義					
	米 川 政 宏					小 島 悦 雄					
ひたちなか	大 都 弘 道	職 域		鹿 島	行 方	小 松 崎 一 郎					
	徳 村 康 秀		金 井 信 行								
那 珂	菊 池 勉		学 剣 連			高 体 連	中 体 連	平 山 一 男			
	蓮 田 保 雄							新 堀 義 男			
大 子	石 井 收							警 察	道 場	実 業 団	吉 川 増 夫
	菊 池 知 之										金 井 辰 彦
笠 間	本 間 敬	女 子 部		居 合 道	杖 道						大 塚 兼 司
	仲 村 洋										原 口 元 和
小 美 玉	稲 田 雅 志		高 齢 剣			高 齢 剣	高 齢 剣				岡 田 宗 久
	沼 崎 潔										弓 野 政 人
県 南	石 岡							菱 沼 和 雄	高 齢 剣	高 齢 剣	淀 縄 寛
								渡 邊 一 郎			中 澤 裕 子
	土 浦	佐 野 毅		高 齢 剣	高 齢 剣			高 齢 剣			伊 藤 政 敏
		染 谷 浩 一									関 展 秀
	稲 敷	塚 本 哲 也	高 齢 剣			高 齢 剣	高 齢 剣				床 宿 道 廣
		鹿 熊 修 博									
取 手	鈴 木 博	高 齢 剣							高 齢 剣	高 齢 剣	
	小 野 泰 之 新										
龍 ケ 崎	棚 橋 新			高 齢 剣	高 齢 剣			高 齢 剣			
	長 尾 慎 一 朗										
つ く ば	大 木 勉		高 齢 剣			高 齢 剣	高 齢 剣				
	大 久 保 秀 伸										
	北 泉 克 好										
かすみがうら	駒 館 義 夫	高 齢 剣							高 齢 剣	高 齢 剣	
	川 島 仁 一										
	大 塚 美 智 子			高 齢 剣	高 齢 剣			高 齢 剣			

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 各地区（市）職域 会長等

ブロック・地区等		会長等		ブロック・地区等		会長等	
県 北	北 萩	石 橋	実	県 西	下 館	川 田	淳
	日 立	梅 村	恒 雄		結 城	曾 雌	哲 雄
	太 田	直 江	克 也		下 妻	石 濱	一 義
県 央	水 戸	清 水	修		常 総	小 磯	仁 宏
	ひたちなか	鈴 木	洋 行		坂 東	木 村	隆
	那 珂	宮 崎	正 雄		古 河	古 谷	芳 和
	大 子	石 井	修		桜 川	飯 島	章
	笠 間	塙	清	職域等・居合・杖道		会長等	
	小 美 玉	皆 藤	誠 志	職域等	学 剣 連	阿 部	昭 彦
県 南	石 岡	本 江	義 明		高 体 連	清 水	秀 一
	土 浦	倉 持	利 夫		中 体 連	山 下	克 久
	稲 敷	酒 井	睦 男		警 察	岡 田	宗 久
	取 手	杉 野	壽 一		道 連	雨 谷	益 水
	龍ヶ崎	伊 藤	治 男		実 業 団	小 蘭	壽 嗣
	つくば	稲 田	敏 己		女 子 部	大 塚	有 子
	かすみがうら	齊 藤	克 朗	高 齢 剣	平 根	健 夫	
鹿 行	鹿 島	宮 本	尚 朋	居 合 道	平 野	政 弘	
	行 方	岡 部	弘	杖 道	松 本	重 雄	

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 委員会

委員会名 係		委員長	副委員長	委 員		
総 務		寺田幸司	小磯仁宏	清水 修	飯泉省三	大塚有子
研 修		本江義明	宮本尚朋	高梨友重	中根宣行	酒井利信
広 報		村嶋恒徳	兼子勝喜	倉持利夫	鍋山隆弘	井上 豊
審 査		鈴木洋行	吉沼正治	西野 隆	直江克也	饗場千晶
選手強化	男 子	阿部昭彦	兼)阿部昭彦	皆藤誠志	横山金一郎	山下克久
	女 子		金井優子	中澤裕子		
	高 校	高体連専門部長	川崎 臣	宮崎正雄	大久保隆	本名和彦
	中 学	中体連専門部長	黒澤和敏	落合弥生	鍋山夏子	
普 及	普 及 (競技者人口拡大)	梅村恒雄	雨谷益水	川田 淳	牛坂裕彦	弓野政人
	学校外部指導者育成 (中学必修化担当)		山崎淳一	松井宏之		
	スポーツ少年団支援	糸賀睦夫	兼)糸賀睦夫	青木 仁	寺田英功	
	女子普及		藤崎金子	小松崎一郎	金井信行	
大 会	吉田信二	中村雅広	大石純子	松井和子		
医 学	林 明人	石原 明	宮田正順	山本裕之	山本雅文	
			新澤 岳	川嶋久恵	藤田 聡	
			北沢真理子	草山美和子	米山 智	

令和3年度・4年度 一般財団法人 茨城県剣道連盟 委員会

委員会名 係	委員長	副委員長	委 員
合同稽古	水戸会場	田中榮治	近藤隆夫 小関広一
	土浦会場		瀧 雅巳 佐藤英雄
居合道	強 化	平野政弘	山崎明正
	普 及	伊藤政敏	齊藤健一 磯目一路
	合同稽古	山崎明正	塚本哲也 来栖利枝 野原 敏 川嶋丈生
杖 道	強 化	関 展秀	田中公明
	普 及	松下俊夫	清水勝政
	合同稽古	松本重雄	西山和位

幹 事	幹事長 山本雅文	上山 修 直井 勝彦 羽根 潤雅哉 清水 良則 北沢真理子	松井 宏之 菊地 耕 瀧 義久 松井 和子 樋口ゆう子	関川 淳一 宮内 博明 菅原 純 山下 悦子
-----	-------------	---	---	---------------------------------

■ ご 寄 付

土浦高津剣道クラブ様

金十万円

■ 事 務 局 だ よ り

昨年度より新たなメンバーで事務局がスタートし、早いものであつという間に一年が過ぎました。その間、剣道連盟で計画した大会等の各事業がコロナにより延期、中止等となり会員の皆さまにはご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。このような中でも各地区（市）職域剣道連盟の事務担当者の皆さまには、日程の変更や会場の確保等にご協力いただきありがとうございます。感謝申し上げます。これからも茨剣連盟事務局と各地区（市）職域剣道連盟事務担当の皆さまと連携を密にして対応して参りますので宜しくお願いたします。

■ 編 集 後 記

本年度より広報委員を拝命しました。この二十年の『茨剣連廣報』の充実によって、県全体の剣道連盟の活動が一目瞭然となり、一体感が強固となってきたものを感じておりました。本年から、兼子、西野、直江、餐場、村嶋の五人で、考えを出し合いながら、さらに『読みやすい、自身の研鑽の糧になる』廣報を目指して、新たに歩き始めました。

その一つの取り組みとして、表紙を、文化財『城』から、枠を広げて『書や絵画』などにも広げていくことになりました。今回は山岡鉄舟先生の書となりました。

また、発行予定を一月、六月にしましたのも、合格体験記をいち早く皆様にご報告できるようにと考えた次第です。

さて、来年度が茨城県剣道連盟設立七十周年となります。『茨城県剣道連盟設立七十周年史』の刊行のために設立された『編集委員会』により、令和四年十一月に刊行予定です。

前村田修広報委員長をはじめとし、茨剣連廣報にご尽力された先生方に敬意を表するとともに、皆様の更なるご支援とご協力をお願いする次第です。（村嶋記）

茨 剣 連 廣 報

発行日 令和四年一月

水戸市堀町一六一―一三

発 行 人

一般財団法人 茨城県剣道連盟
広報委員長 村嶋恒徳

委員 兼子 勝喜

委員 西野 隆

委員 直江 克也

委員 饗場 千晶

印刷 野崎印刷紙器株式会社



全生庵全景

鐵舟が開いた全生庵

台東区谷中の谷中墓地から千駄木に至る三崎坂の中腹に、全生庵は位置する。「全生」とは人間として生命を全うするという意味である。

1880年（明治13年）、山岡鐵舟が明治維新に殉じた人々の菩提を弔うために寺院の建立を発願した。臨済宗国泰寺の越叟禅師を開山に招聘し、1883年（明治16年）に創建した。山号は普門山という。本尊はかつて江戸城の守り本尊だった「葵正観世音菩薩」である。在家の人々の座禅の道場となっている。

境内には鐵舟の墓をはじめ、落語家三遊亭円朝（初代）、現在の茨城県稲敷市出身の画家 松本楓湖などの墓もある。